

ふるさとを大切にする子に

9月12日は「とっとり県民の日」です。明治14年に今の鳥取県が誕生した日にちなみ、平成10年に制定されました。「県民がふるさとについて理解と関心を深めるとともに、ふるさとを愛する心を育て、自信と誇りの持てる鳥取県になるよう力を合わせて築き上げることを期する日」と県が作成したパンフレットにありました。

今日の給食も、鳥取県の特産品のナシやらっきょう、日本一消費量の多いカレーを使ったメニューでお祝い、みんなでおいしくいただきました。

羽合小学校では、地域に学ぶ学習、ふるさとが好きな学習をたくさんしています。

湯梨浜町には、江戸時代の末期、黒船の来航（襲撃）に備えてつくられた橋津台場跡、山陰で最古最大級の古墳である馬ノ山古墳などの史跡も多くあります。また、東郷池を中心とする自然や環境、観光等を調べたり、ドラゴンカヌー体験をしたりする活動も行っています。

先日は3年生が湯梨浜町の特産品である「はわいピオーネ」のことを夢マートの方に聞いていました。5年生は、泊にある県の水産試験場に行って、この地域の水産業について学習をする計画を立てています。

さて、皆さんは鳥取県の今の人口は何人かご存じでしょうか。少し前まで鳥取県は人口60万人と記憶していたのですが、現在約55万人だそうです。ある統計調査によると、20年後の鳥取県は総人口が55万人から40万人となり22%減。19歳までの若年人口は9.8万人から6.2万人にまで減り、率にすれば36%減と予想されています。中部地区の小学校は26校ありますが、学校の数も今より少なくなっていそうです。

鳥取県は知事を先頭に「星取県」、「蟹取県」などのキャンペーンを行い、観光客を誘致したり、特産品の販売促進に力を入れたりするなど、人口減が予想されている各自治体は様々な工夫をし、産業の振興と人口流出に歯止めをかけようと努力しています。

ふるさと教育は、子どもたちがふるさとに愛着を持つだけでなく、地域を支える人材の育成も先にあるねらいです。地域に住む子どもたちが郷土に愛着や誇りを持っているが、すべての子どもが都会に出ていってしまっては困るのです。ふるさと教育は、実は鳥取県の存続に関わる話だと私は思っています。

ともあれ、いろいろな事情や背景があるにしろ、自分の住んでいる地域のことを知り、自分の生まれ育った地域のことを誇りに思う、そんな子どもに育ってほしい。ふるさととして、どこで暮らしていても、いくつになっても人の真ん中にあるものだと思うのです。

